

平成 6 年度畑作関係

除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成 6 年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成 6 年 12 月 1 日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、定性試験 1 剤、作用性試験 14 剤、適用性試験 32 剤であ

った。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表の通りである。

平成 6 年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
1. AC-263 液 ・新規化合物 0.8%	小 豆	継								・効果・薬害の再検討。
2. BAS-3510 (Na)① 液 ・ベンタゾン40%	大 豆	実・継	一年生 広葉雑草	茎 葉	生育期, 広葉雑草 3 ~ 6 葉期	10 ~ 15m ^l /	全土壌	温暖地 暖 地	1. 品種を限定して使用する〔適用品種; アキシロメ, エンレイ, フクユタカ, ミヤギオオジロ, ナカセンナリ, オオツル, スズユタカ, タマホマレ, ハヤヒカリ, 新丹波黒, 宇陀大豆, トヨシロメ, タチナガハ, 丹波黒, アキヨシ〕 2. 広葉雑草優占圃場で使用する。 3. 体系処理; イネ科雑草に有効な既登録土壌処理剤を使用する。	・適用品種の拡大, 地域拡大。

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容		
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意	
3. BGX-816 水溶 ・グリホサート ……………16% ・ピアラホス ……………8%	かんし よ	実 (前年通り)	一年生 雑草全 般	茎 葉	挿苗ま たは耕 起10日 以前	40～ 60 g	全土壌	温暖地 暖 地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。		
				茎 葉 (畦間)	生育期	40～ 60 g (水量 5～10 l)			1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかから ないように散布す る。 3. 雑草草丈15cm以 下で使用する。		
	こんに ゃく	実 (前年通り)	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 または 培土後 萌芽前	40～ 60 g (水量 5～10 l)	全土壌	寒冷地 温暖地 東部	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。		
				茎 葉 (畦間)	生育期				1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかから ないように散布す る。 3. 雑草草丈15cm以 下で使用する。		
4. CG-123 フロアブル ・アトラジン ……………15% ・メトラクロール ……………25%	とうも ろこし	実・継 (前年通り)	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後、 雑草発 生前	20～ 40m/l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地 寒冷地		・地域拡大(イチビ)。	
							火山灰 土	温暖地			
						10～ 30m/l		暖 地			
				茎 葉	とうも ろこし 2～4 葉期	20～ 30m/l 30～ 40m/l (但し、 イチビに は40～ 60m/l)	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地 寒冷地 以西 (但し、 イチビに ついては寒 冷地～ 温暖地)	1. 生育の遅れる地 域(根釧など) では2葉期処理 とする。		

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
5. DCMU フロアブル ・DCMU ……50%	さとうきび	継								・効果、薬害の再検討。
6. Hoe-171S 乳 ・フェノキサプロップ-P-エチル…6%	大豆	実 (前年通り)	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草3～5葉期	5～7.5m/l	全土壌	全 域	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理；広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。 3. スズメノカタビラは除く。	
7. Hoe-86610 液 ・グルホシネート……8.5%	大豆	実	一年生雑草全般	茎 葉	播種前	40～75m/l (水量5～10l)	全土壌	寒冷地以西	1. 周辺作物に飛散しないように散布する。 2. 雑草草丈20cm以下で使用する。	
8. HSW-922 乳(EW) ・チフェンスルフロメチル……2% ・IPC…30%	大豆	実	一年生広葉雑草	土 壌	播種後	15～20m/l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地	1. 寒地では播種後6日から出芽2日前までに使用する。	
	小豆	実	一年生広葉雑草	土 壌	播種後	10～15m/l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地	1. 寒地では播種後2日から出芽2日前までに使用する。	
	菜豆	実	一年生広葉雑草	土 壌	播種後	15～20m/l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地	1. 寒地では播種後6日から出芽2日前までに使用する。	
9. JT-101 乳 ・ペラルゴン酸……52%	ばれいしょ	実	一年生雑草全般	茎 葉	植付後萌芽前	500～750m/l	全土壌	寒 地	1. 周辺作物に飛散しないように散布する。 2. 雑草の発生後草丈15cm以下で使用する。	
						500～1,000m/l		寒冷地以西		
10. KUH-901 乳 ・ベンチオカーブ……50% ・リニュロン……7.5% ・ペンディメタリン……5%	菜豆	実	一年生雑草全般	土 壌	播種後	60～80m/l	全土壌 (砂土を除く)	寒 地	1. 寒地では播種後2日から5日の雑草発生前で使用する。	・処理時期について再検討。
	ばれいしょ	実・継	一年生雑草全般	土 壌	植付後	60～80m/l	全土壌 (砂土を除く)	全 域	1. 雑草発生前に使用する。	

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 製品/a	適用土 壌	適用地 帯	使用上の注意	
11. KUH-901 細粒 ・ベンチオカー ブ……8% ・リニュロン ……1.2% ・ペンディメタ リン…0.8%	とうも ろこし	実	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	400～ 500g	全土壤 (<u>砂土</u> を除く)	寒冷地 以西	1. 砕土，整地，覆 土は丁寧に 行い均一に 散布する。	
	ばれい しょ	実	一年生 雑草全 般	土 壌	植付後	400～ 500g	全土壤 (<u>砂土</u> を除く)	寒冷地 以西	1. 砕土，整地，覆 土は丁寧に 行い均一に 散布する。 2. 雑草発生前に使用 する。	
12. Mon-8794 液 ・グリホサート ……20%	こんに ゃく	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 または 培土後 萌芽前	30～ 50ml (水量 2.5～ 5l)	全土壤	寒冷地 温暖地 東部	1. 周辺作物に飛散 しないよう に散布す る。 2. 少水量散布の場 合は専用ノ ズルを使用 し均一に散 布する。	
				茎 葉 (畦間)	生育期				1. 周辺作物に飛散 しないよう に散布す る。 2. 作物にかから ないよう に散布す る。 3. 雑草草丈15cm 以下で使 用する。 4. 少水量散布の場 合は専用ノ ズルを使用 し均一に散 布する。	
13. NC-331① 水和 ・成分未公開 ……5%	とうも ろこし	継								・効果，薬害に ついて再検討。
	さとう きび	継								・効果，薬害に ついて再検討。
14. NP-55 乳 ・セトキシジム ……20%	ばれい しょ	継								・効果，薬害に ついて再検討。
15. PL-10 乳 ・ペンディメタ リン……15% ・リニュロン ……10%	とうも ろこし	実	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	40～ 50ml	全土壤 (<u>砂土</u> を除く)	寒 地		
						40～ 60ml		寒冷地 以西		

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準							継 の 内 容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯	使用上の注意	
16. PL-10 細粒 ・ペンディメタリン…1.5% ・リニユロン ……1.0%	とうもろこし	実・継	一年生雑草全般	土 壤	播種後	400～600 g	全土壌（砂土を除く）	寒冷地 温暖地	1. 砕土、整地、覆土を丁寧に行い均一に散布する。	・適用土壌の拡大、地域拡大、効果の確認。
							火山灰土	暖 地		
	こんにゃく	実・継	一年生雑草全般	土 壤	植付後または培土後萌芽前	400～600 g	火山灰土	寒冷地 温暖地 東部	1. 砕土、整地、覆土を丁寧に行い均一に散布する。 2. 雑草の発生前に使用する。	・適用土壌の拡大。
17. S-28 U 粒 ・ブタミホス ………3%	ばれいしょ	継								・効果、薬害の再検討。
18. S-604 乳 ・クレソジム ………25%	大 豆	実・継 (前年通り)	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草 3～5 葉期	1.5～2.5ml (オイル25ml加用)	全土壌	寒 地 寒冷地 温暖地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・オイル無加用での効果、薬害の再検討、地域拡大。
						2.5～5ml (5mlはオイル無加用)		寒冷地		
	小 豆	実・継	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草 3～5 葉期	1.5～2.5ml (オイル25ml加用)	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・薬量について再検討。
						5ml (オイル無加用)				
	てんさい	実・継	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草 3～5 葉期	1.5～2.5ml (オイル25ml加用)	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・薬量について再検討。
						5ml (オイル無加用)				

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 製品/a	適用土 壤	適用地 帯		使用上の注意
19. SB-508 乳 ・ジメテナミド ………76%	とうも ろこし	実・継	一年生 イネ科 雑草	土 壤	播種後 ～とう もろこ し2葉 期まで (雑草 発生前 ～発生 始期)	10～ 15m/	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西		・地域拡大, 効 果の再確認.
20. SL-160 フロアブル ・フラザスル ロン……25%	さとう きび	継								・効果, 薬害の 再検討.
21. SSH-130 粒 ・ペンディメタ リン…1.25% ・トリフルラリ ン……1.25%	陸 稲	実・継	一年生 雑草全 般	土 壤	播種後	400～ 600g	火山灰 土	温暖地 暖 地	1. 砕土, 整地, 覆 土を丁寧に 均一に散布する. 2. キク科雑草, ツ ユクサを除く.	・適用土壌の 拡大.
22. トリフルラリ ン 乳	小 豆	実・継 (前回 通り)	一年生 雑草全 般	土 壤	播種後	25～ 30m/	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地		・地域拡大.
・トリフルラリ ン……44.5%	菜 豆	実	一年生 イネ科 雑草	土 壤	播種後	20～ 30m/	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1. 寒地では播種後 6日から出芽2 日前までに使用 する.	

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京(03)3832-4188(代)

平成7年1月発行

植調第28巻第10号

定価412円(送料250円)

(本体400円, 消費税12円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 千坂英雄

発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京(03)3833-1821番(代)

印刷所 新 成 印 刷 欄